

『焰くほむらく』

脚本 中村ノブアキ

登場人物

イチバ自動車の社員

木須亜希子（42）部長

野中豊則（44）次長

立実健司（40）主任

張本淳子（38）社員

別府大作（37）社員

町田哲史（62）社長

カワマツエナジ―の社員

茂弘達仁（46）部長

真野利彦（40）課長

小枅薫（32）課長補佐

先山真也（36）社員

下尾真弓（29）社員

舞台は2つのオフィスが同じセットで展開される。
【イチバ】と【カワマツ】である。中央に部員が固まるデスク島があり、社員はそこで仕事を。
端には簡易な応接セットがあり、客時の接客や社員同士の休憩場所として使用される。

【イチバ】
東京に本社を置くグローバル企業、イチバ自動車のオフィスである。
そしてここはEV事業推進室パワーユニット開発部として電気自動車の電池部分を開発している部署である。

【カワマツ】
グローバル電機メーカー、川松電器の完全子会社カワマツエナジのオフィスである。
カワマツエナジは栃木に本社を置くカー企業で、ここはオートモティブ事業部として電気自動車の電池を製造販売している部署で、イチバ自動車のいわゆる下請け企業である。
部屋の奥には開発室があり、社員は実験着を着て出入りするようになってる。

〇場【記者会見】

町田、木須、野中が登場し、3人同時に深々と頭を下げる。
同時にフラッシュが焚かれ、5人の記者たちが勢いよく入ってくる。

記者1 町田社長ご自身、アイレの航続距離に不正があったと認めるんですね？

記者 2 電気自動車における燃費を電費というそうですが、本来の電費とどのくらいの乖離があったんでしょうか？

記者 3 木須部長にお聞きしたいんですが、不正は意図的だったんですか？

記者 4 イチバ自動車はアイレを何台生産したんでしょうか？

記者 5 ゴビ自動車との販売提携が不正発覚のきっかけになったということですね？

記者 3 野中次長、国内販売された新車は何台なんでしょうか？

記者 5 木須部長にお聞きしたいんですが、不正は意図的だったんですか？

記者 1 今まで買われたお客様への補償はどうするんでしょうか？

記者 2 イチバ自動車はアイレを何台生産したんでしょうか？

記者 4 電気自動車における燃費を電費というそうですが、本来の電費とどのくらいの乖離があったんでしょうか？

記者 5 リコールということの間違いないでしょうか？

記者 1 ゴビ自動車との販売提携が不正発覚のきっかけになったということですね？

記者 4 社長は開発計画をどこまで把握されていますでしょうか？

記者 3 町田社長ご自身、アイレの航続距離に不正があったと認めるんですね？

記者 2 不正の内容と経緯を教えてください。

頭を上げる町田、木須、野中。
ゆっくりと暗転。

一場【イチバ】

終業BGMが鳴り、社内アナウンス
が流れる。

ナレ 6時になりました。今日はノー残業デーです。10分後に全館消灯します。業務に区切

りをつけて みなさん早く帰宅しましょう。
今日も一日お疲れさまでした。

別府はPCを見ている。
立実はテーブルで新聞を読んでいる。
2人とも珈琲を飲みながら。

立実
裁量労働制。冗談じゃない。撤回だよ。撤回。
回。霞が関も永田町も、現場を見て
ない。だからこういうことになった。
何をやってんだ野党は。

しばし間。

別府
カーリング女子、イギリスに負けたみたい
すね。次のスイスに勝てば準決勝進
出だそうですね。素朴でいいですね。
彼女たち。あ、別にタイプとかそう
いうことじゃないすからね。

立実
タイプなんすけどね。

別府
ケートの、俺はどっちかって言うとスピードス

別府
あ、出ました。経済産業省、給油所
でEV充電。速報出しましたね。

立実
なんだって？

別府
ああはい。えつと。現状ではEV向けの
充電設備を設ける場合、ガソリンの給油
スペースから近くても10メートルほど離
れた場所にしか設置できないため、手狭な
給油所では制約があった。安全性への検証
を進めつつこの規制を緩め、早ければ来年
度にも規制緩和に踏み切る。以上です。

立実
よし。

別府
アイレ、売れちゃいますね。

立実
それで今、部長たちが11階に呼ばれてる。
ですよ。なんなんすか？

立実
臨時経営会議だと。アイレの開発コンセプト
をもう一度議論したいんだってさ。

別府 え？いやだってもう進んでるじゃないすか。それこそ経営の承認もらって。え？何を今さら。

立実 だよな。

別府 開発コンセプトって、まさか電池すか？うちらパワーユニット開発部と呼ばれたってことは、そういうことだろ。

別府 電池の性能上げろと。

立実 航続距離をもっと伸ばせってことだよ。

別府 400キロであればLを抜いてN01になるからいいって。そう言ったの社長自身ですよ。

立実 N01って言っても、国内メーカーだけの話な。ヨーロッパ勢がモーターショーで発表した航続距離、お前も知ってるだろ。

別府 Vが600キロって宣言してました。

立実 だよな。

別府 2020年って、あと2年ですよ。すごいなって素直に思いましたよ。

立実 ようやくEVの開発競争が本格化する。

別府 「これからは電気自動車の時代が来る」って言われても来なかったですから。

立実 インフラの問題が大きかったからな。でも規制緩和で充電設備が増えれば、状況が一変する。

別府 ・・・また開発やり直すんですか？

立実 たぶんな。

別府 ええええ、ちょっとそれ。なんすかそれ。

立実 2年かけてようやく目標の400キロをクリアしたつうのに。今までの努力が無駄になるってことすよ。

立実 現場見てないんだよ。11階も。

立実 ホント勘弁してほしいすよね。えー、また1からすか。

しばし間。

別府 400から何キロになるんすかね？

立実 さあな。製品企画部様が経営に渡した分析次第ってとこだ。

別府 立実 ホント余計なことしてくれませよね。
立実 現場の感覚がわかる経営層であれば、冷静
別府 な判断ができるんだけどな。
立実 今のイチバ自動車じゃ永遠に無理ですな。
別府 社長がずーっとイチバ商事の人ですか
立実 ら。・・・420くらいすかね？
別府 ・・・・別府、今日、予定ある？
立実 あ、いや、今日はちよつと。
別府 なんだよ、デートかよ。
立実 はい。
別府 じゃあまた今度な。
立実 お願いします。

しばし間。

立実 あったかくなったら豊洲のバーベキュー
別府 行かない？
立実 なんすかそれ。
別府 知らねーのかよ。豊洲にあるバーベキュー
立実 施設。

と言ってスマホを操作、画面を見せ
ながら。

立実 こっからならゆりかもめ1本で行ける。
別府 へえ。いいんすかここ。
立実 いいよ。何にも持って行かなくていいし。
別府 それ普通ですよ。
立実 いやそれが普通じゃないんだよ。おしやれ
別府 だし。そこで結婚式もできるからね。
立実 へえ、あ、ホントだ。面白そうすね。
別府 その別府の彼女も連れて来いよ。うちら家
立実 族とさ。4月から5月。どう？
別府 言っときます。
立実 めっちゃいいから。
別府 立実主任、ホントキャンプ好きすよね。
立実 キャンプじゃない。グランピングと言え。
別府 グランピング。
立実 はいはい。でも・・・
別府 なんだよ。

そこに木須、野中が険しい顔で入って来る。

別府 木須部長の話次第じゃないすか。

・ ・ ・

何？何の話？

木須 バーベキュー誘ったんですよ。彼女連れてこいって。なかなか彼女紹介しないから、実は彼女がいるっていうのブラフじゃないかかって。野中次長が言ってたんです。

え？

別府 おい、俺だけじゃねえだろ。立実も言ってたじゃねえか。

立実 いやー僕は言っていないですよ。

え？え？え？

野中 おい嘘つくなよ。

別府 いいじゃないすか。僕の話は。

野中 だから実はあるんじやないかって話になつて。

木須 ちよつとそういうデリカシーのない話やめなさい。いいじゃない。別府くんが誰と付き合おうと。

立実 そりやもちろんいいですよ。

野中 ダイバーシテイですから。俺たち。

別府 ノーマルですよ僕は。・ ・ ・そっちの趣味はありません。それより大事な話があるんじゃないすか。

立実 やっぱ規制緩和の件でした？

木須 ・ ・ ・座って。

4人ともデスクに集合する。

木須 いい？これは経営判断です。・ ・ ・今の電池では戦えないだろう。規制緩和によって競争は必ず来年には飛躍的な性能を持つEVを投入してくるはず。国内メーカーだけじゃなく、輸入車も。そんな時うちのアイレが航続距離400キロしか出せなか

野中 　　「っいたら、生活者からまったく見向きもされない、売れない車になるだろうって。なんでその時部長は言わなかったんですか？我々は皆さんの指示通り、目標の400キロをクリアした電池を開発したって。それも2年かけて。言っても意味ないことはわかってるじゃない。」

野中 　　「それでも現場は必死だと伝えることは無駄じゃないと思います。」

木須 　　「無駄よ。必死なのは現場だけじゃない。経営も必死なの。イチバ自動車が生き残るために必死なのよ。」

しばし間。

立実 　　「何キロなんですか？経営が示した航続距離は。」

木須 　　「500キロ。」

立実・別府 　「え？」

立実 　　「500キロ？」

木須 　　「今度は1年以内。今のコストは維持したまま、という指示よ。」

絶句する2人。

立実 　　「無理ですよ。無理に決まってるじゃないですか。」

野中 　　「俺もそう言った。それは無理だった。でも部長は「わかりました」しか言わなかった。当たり前じゃない。経営は勝てるシナリオを書くのが役割で、私たちはそれを実現するのが役割なんだから。」

立実 　　「だから黙って従えと。」

木須 　　「私たちは雇われてる身。無理とかそういう話は聞きたくありません。どうすればこの目標をクリアできるのか、そういう前向きな姿勢で議論を進めてほしいです。」

立実 　　「部長は一体どっちの味方なんですか！……すいません。今のなしです。」

木須
私にはE.V事業推進室パワーユニット開発部の部長として、部員の力を結集させ、プロジェクトを成功に導く役割があります。みんなの味方なのは当然じゃない。

そこに張本がやってくる。
完全な私服姿。

別府
張本さん！
張本
ご無沙汰してます。

座っていた4人、口々に驚きの声とともに張本に近寄る。

野中
どうしたんだよ？

張本
来週から復帰するんで、人事から手続きに来いって。

野中
ああそうかそうか。来週から1年ぶりの会社復帰か。

張本
はい。またよろしくお願いします。こちらこそ。

木須
無理しなくていいからね。

張本
ありがとうございます。

立実
あっちゃんは今？連れてきてない？

張本
今、母親に看てもらってる。

立実
あっちゃんって言うのか？子ども。実はここツイッターで繋がってて、はりじゅん、子どものこと結構呟いてるから知ってるだけです。

張本
（笑）この前も立実さんリプライで「あっちゃん、元氣々につきり顔文字」みたいな送ってきて。あ、うちの子、敦子っていうんです。

別府
へえ。あ、女の子なんすね。

張本
はい。
立実
保育園に入れるためにお花茶屋に引っ越したんですよ。

張本
世田谷区は倍率厳しくて、私が働くためには保育園が必須だったんで。

別府 お花茶屋？ってなんかかわいい名前すね。
どこなんすか？
野中 墨田区だよ。これだから田園調布育ちは困
るなあ。
別府 いやいや全然関係ないすそれは。知ってま
した？墨田区にお花茶屋があんの。
木須 ええまあ。私の前の旦那が東京東部を管轄
してた営業だったから。
別府 あ、そうだったんすね。
木須 だから知ってますよ。お花茶屋が葛飾区だ
ってこと。
野中 え？・・あ、そうそう。お花茶屋は葛飾
区。葛飾区でした。
張本 時短勤務になりますよ、来週から、墨田区
のような葛飾区から通うんで、よろしくお
願いします。

4人、口々に「こちらこそ」みたい
な返事。

張本 人事ってフロア変わりました？9階行っ
たら全然違ってて。
立実 ああ、そういえば8階になったかも。(腕
時計)早く行かないと、今日はノー残業デ
ー。
張本 え？あやばい。
立実 案内するから付いてきて。
張本 はい。

立実が去る。

別府 張本さん。
張本 なに？
別府 (スマホを掲げて)僕もフォローしてい
いか？
張本 いいよ。

と言って、張本、去る。
野中、スマホを取り出し、

野中 カワマツエナジーに電話入れときます。明日、そっちに行くって。いいですよね？

木須 よろしくお願い。
野中 立実には自分から言っておきます。
木須 そうしてくれる。

野中 はい。(電話) あ、もしもし、イチバ自動車の野中です。お世話になってます。茂弘部長お願いします。・・・あ、茂弘部長ですか。イチバの野中です。どうもいつもお世話になってます。・・・実はアイレのオン電池の件なんです。ちよつと大変なことになってしまいました。・・・ええまあ、そうなんですけど、それで明日そちらに行こうかと思つてまして。・・・はい。宇都宮です。

と言いながら部屋の外へ。
別府、珈琲を給湯室に持つて行こうとした時、部屋が消灯する。

木須 別府くん。

別府 はい？

木須 私もフォローしていい？

別府 ・・・
木須 今日、バーベキューがいいんだけど。

別府 じゃあいつもの店で。

木須 OK。

転換。

二場【カワマツ】

真野、先山、下尾は栃木弁である。

茂弘、真野が並んで入ってくる。

真野 イチバさんが来るってどういうことですかね？

茂弘 さあ。なんか緊急の用事だから直接お話ししたいって。

真野 不具合でもあったんですかね？

茂弘 さあ。そんなことはないと思うがね。
真野 じゃあ緊急ってどういうことですかね？
茂弘 さあ。だから直接話したいって来るから。
真野 直接聞けばいいんじゃないか。
茂弘 不具合でもあったんですかね？
真野 知らんよ。だからもう来るから、直接聞いてくれよ。
真野 はい。したっけそうします。

2人、デスクに座る。
やがて開発室から入ってくる小柵と下尾。
2人とも実験着である。
着替えながら、

下尾 えー、そんなに行ってるんですか？
小柵 だから月初めは超貧乏。それでも行っちゃ
下尾 うんだけどね。寂しいから2人で。
小柵 そりゃあ寂しいですよね。
下尾 寂しいよ。こっち友達いないし。遊ぶところないし。
下尾 えー、別に遊ばなくてもいいじゃないですか。
小柵 俺はいいんだけど、茂弘部長は単身赴任じやん。だから相当羽伸ばしてる。
下尾 へー。どんなタイプなんですか？その気に入ってるキャバ嬢って。
小柵 俺が指名してる子は、なんていうか大柄で外人っぽい感じで、茂弘部長が指名してる子は、えっと、(茂弘に) ななみちゃんに似てる芸能人って誰でしたっけ？
茂弘 茂弘部長、いつも似てるって言うじゃないですか。
茂弘 誰でしたっけ？
小柵 (咳払い)
茂弘 (コソコソと会話を続ける) 部長曰く、バシない浮気は浮気じゃないんだって。
下尾 えー。えー。

小 栴 だって知らないってことは、そんなことな
かったってことですよ。

茂 弘 (咳払い)

小 栴 逆に、知らない方がよかったってことな
い？

下 尾 うーん、今のところないですね。

小 栴 あそう。必ずしもすべてをぶっちゃけるこ
とがいいとは限らないと思うんだけどね。

下 尾 そうですかね？私は全部知りたいですけ
ど。彼のこととは。

小 栴 え？マジで？こわっ。

下 尾 え？なんで？

小 栴 なんかすべてを握りたいって感じ。

下 尾 あ、そういうの私、好きです。影のシャド
ーって呼んでください。

小 栴 ・・・まゆみん、来月30になるんだよね？

下 尾 そうなんです。

小 栴 とても俺の3つ下とは思えない。

下 尾 そうですか？

小 栴 うん。ねえ、真野さん？

真 野 え？

小 栴 真野さんもそう思うよね？

真 野 何がですか？

小 栴 聞いてなかった？

真 野 はい。

小 栴 あそう。なんか時々、噛み合わない気がする
んだけど、気のせいかな？

真 野 気のせいですよ。・・・(下尾に)影のフィ
クサーね。

2人、実験着を片付ける。

茂弘のデスクに外線が入る。

茂 弘

(電話) はい。カワマツエナジー、オート
モーティブ事業部です。・・・ああ先山く
ん。・・・今、1階？・・・わかった。そ
のまま3階に案内して。・・・で、イチバ
さんは何人？・・・わかった。(切る)・・・
下尾さん。
はい。

下 尾

茂弘 お茶4つ、お願い。
下尾 はい。
茂弘 あと例のものを2つ用意しといてください。
下尾 い。まだ冷凍庫にあったよね？
（微笑）わかりました。

下尾、給湯室へ。

茂弘 真野課長、一緒に話を聞いてください。
真野 なんの話なんですかね？
茂弘 ・・・
小枘 茂弘部長、私も同席しましょうか？
茂弘 ・・・お願いします。（給湯室に向かつて）
下尾 さん、お茶5つにして。・・・わざわざ東京から来るといふことは、相当な用件だと思っただい。そのつもりでいってください。
真野 ・小枘 はい。
真野 なんの話だと思えますか？
小枘 この前納品した電池がトラブルだったんじゃないの。
真野 量産初号品が？
小枘 試験走行で400キロ持たなかったんじゃない？
真野 それがないことは小枘さんもわかってますよね？

エレベーター到着の音。

小枘 じゃあ発火？するわけないよな。
真野 するわけないです。

先山、野中、立実が入ってくる。

茂弘 野中次長、立実主任、遠いところをお越し
野中 いただき、ありがとうございます。
茂弘 ああいやいや。こっちが行くって言ったわけですから。
茂弘 えーじゃあ、どうぞ。

5人、応接セットに座る。
下尾が珈琲と紙袋を持って入ってくる。
紙袋をどこかに置いて珈琲を出す。

下尾 どうぞ。
野中 すいません。
立実 ありがとうございます。
野中 駅前の再開発やっと進むようですね。
茂弘 ええ、ようやく市が動き始めました。
野中 経緯は車の中で先山さんから聞きました。
茂弘 要は行政の計画が甘かったです。
野中 結果論で言えば、そうですね。
立実 計画が甘いのは宇都宮市だけじゃないですよ。
野中 ・ ・ ・うちも人のこと言えんな。
茂弘 ・ ・ ・ご用件はなんでしょうか？

しばし間。

野中 今からお話することはイチバ自動車の取締役会で決まったことです。
茂弘 はい。
野中 御社に発注したりリオン電池なんです。
茂弘 が：・もう一度作り直してほしいんです。
茂弘 ・ ・ ・どういう意味でしょうか？
茂弘 充電設備の件、規制緩和の動きがあるのはご存知ですよね？
茂弘 それはもちろんです。
茂弘 検討を重ねた結果、EV市場が今後ますます競争激化するだろうって予測をしまし
茂弘 て。
茂弘 それはまあそうですね。
茂弘 だからこそ。リオン電池の計画を一から見直したいんです。
茂弘 ーからってどういうことですか？
茂弘 あいやーからってというのは大げさですね。
茂弘 正確に言えば、これから先の開発計画を前倒してほしいというのが弊社からの依頼です。

茂弘
野中

前倒し？

今度のアイレに搭載するリオン電池なんです。航続距離を伸ばしたものに改良していただきました。

茂弘

初号品はもう納品してますよね？

野中

ですからそれはそれ。新たにもう一度、トライしてほしいんです。

茂弘

今の400キロじゃ足りないよ。

野中

そういうことです。

茂弘

何キロなんですか？新しい目標は？

野中、立実が目配せ。

立実、ファイルから書類を出す。

茂弘

500キロ！

小柝

500？100キロも伸ばせっていうんですか？

野中

はい。それも1年以内に。

絶句するカワマツエナジ―の人々。

茂弘
真野

500キロを1年以内に？

野中

今の初号品を開発すんのに掛かった期間、ご存知ですよね？

真野

もちろん。オーダーしたのは我々だ。

野中

50キロ伸ばすのに2年掛かりました。それも本来なら3年掛かるところをみんなで頑

野中

張って、やっと達成したんです。イチバ自動車さんのために。

真野

その頑張りには敬意を表してます。さすがカワマツエナジ―さんだと思いました。

真野

「これでアイレは売れる」って、感謝の言葉を言ってくれたじゃないですか。

野中
立実

（立ち上がり）弊社の甘い計画のせいで、皆さんにご迷惑をお掛けすることになってしまいました。心よりお詫びします。ホントに申し訳ありません。

と言って、深々と頭を下げる。

先山　　や、謝られたって無理なものは無理ですよ。
野中　　無理ですか。
茂弘　　私たちは下請けだ。簡単に無理なんて言う
先山　　もんじゃない。
先山　　や、できる可能性があるんなら、やりませ
野中　　よ。休み返上してでもね。でもどう考えた
野中　　って無理に決まってんじゃないですか。
野中　　皆さんの気持ちは痛いほどわかります。
先山　　や気持ちじゃなくって、
野中　　それをやってもらわないと、この取引はな
茂弘　　かったことになりませう。
茂弘　　どういう意味ですか？

しばし間。

野中　　他社さんをお願いします。ある会社と裏が
真野　　取れてませう。
野中　　もうですか？
小柘　　はい。
野中　　ここまでやったうちを今さら見捨てるん
野中　　ですか？
野中　　私も御社以外ありえないと思ってませうよ。
野中　　2年。ここまで頑張ってもらった。しかし
真野　　これ（書類）が社の経営判断である以上、
真野　　できないと言われたら・・・
野中　　その他社さんつーのはどちらさんですか
野中　　ね？
野中　　・・・それは言えませう。
立実　　（立実に）言えないですか？
立実　　・・・すいません。
野中　　これ（書類）が無理難題であることは百も
野中　　承知です。ですが、売れないとわかってる
野中　　車を作ることとはできない。弊社の立場もご
茂弘　　理解いただきたい。
茂弘　　私としては無理だと言いたくない。喜んで
茂弘　　受けたいと思ってます。

ざわつくカワマツエナジィの人々。

野中 さすが茂弘部長。力強い言葉だ。イチバ自動車
を代表して、
茂弘 あいやしかし、さすがに私の一存では決め
られませんか。
野中 それはそうでしょう。返事は今じゃなくて
も構いません。
茂弘 今から川松に会ってもらえませんか？
野中 川松社長に？今から？
茂弘 はい。イチバさんの意向を直に伝えてもら
いたいんです。その上で社長の判断を仰ぎ
たい。
野中 わかりました。お会いしましょう。
茂弘 あー小柘くん、一緒に来てくれるか。
小柘 喜んで。

茂弘、小柘、野中が行こうとする。

野中 立実主任。
立実 はい。
野中 終わったら連絡するから、そしたら車を正
面に回しといてください。
茂弘 はい。
先山 あ、これ。
下尾

と言って紙袋を野中と立実に渡す。

野中 いつもいつもありがとうございます。
立実 あの、さすがに今回は・・・
下尾 そんなこと言わないでくださいよお。大し
たもんじゃないんで、もらってください。
茂弘 それ、下尾の実家で作ったものだって知っ
てました？
野中 え？下尾さんの実家、餃子屋さんなんです
か？
下尾 はい。母がお店をやってんですよお。
下尾 これ持って帰ると、家族が大喜びするん
ですよ。めちゃくちゃ美味しいから。
下尾 どーもー。母も喜びます。
野中 遠慮するのも失礼だ。ご厚意は受け取った
方がいい。

先山 そう。いつだって子会社の運命は親会社の意向で決まります。さすが下尾選手、最終問題で逆転しましたね。

下尾 イエーイ。・・・てことはやっぱ受けんのかな？さっきの話。

先山 だろうね。現場の声は聴いてもらえねー。

しばし間。

下尾 なんでタバコ止めたの？

先山 え？

下尾 あんなにヘビーだったのに。

先山 ・・・・さていよいよこれが本当の最終問題です。

下尾 ちよっと。さっき最終問題って言ってなかった？

先山 言ってねー。

下尾 えー。。

先山 さていよいよこれが最終問題です。

下尾 ブー、ブー、ブー。

先山 下尾選手、準備はいいでしょうか？

下尾 ・・・・はいわかりました。

先山 なぜ僕は禁煙したんでしょうか？答えは3択です。

下尾 はいはい3択ね。

先山 1。身体に悪りいと思った。

下尾 ・・・・

先山 2。お金がなくなった。

下尾 あ、はい。2。

先山 ブー、違います。

下尾 え？違うの？

先山 3。・・・下尾真弓さんが妊娠したから。

しばし間。

下尾 (勢いよく) 3！

先山 (勢いよく) 正解！

そこに真野がやってくる。

真野

えー……知らなかったあ。2人がね、そういう関係だったのね……あいやね、ライターをね、忘れちゃいましてね。

転換。

三場【イチバ】

昼の節電で少し暗いオフィス。
ランチ帰りの別府と張本が話をしながら入ってくる。

張本

父がF1の番組よく観てたのね。その影響で私も好きになって、ずっとテレビ観てたの。その後、観るだけじゃ物足りなくなつて、高校の時にレーシングカートやるようになったの。これがまためっちゃ楽しくて、それがきっかけでレーシングカートにはまったの。

F1繋がりがだったんすね？

そう。

そういうことすか。

ホントすごいはまったの。でもなかなか勝てなくて。そっれが悔しくて悔しくて、めっちゃ勝ちたいから、エンジンとかステアリングとかいろいろ自分で。キャプテンに教わりながらだけど自分で。高2だったかな？ たったそれだけで劇的に成績が上がるようになって。それから車って手を入れるだけで全然別の車になるんだ、面白いなあって思うようになって。だから大学で機械工学を専攻したの。念願叶ってイチバ自動車に入社できたんだけど、まさかEVの部署に配属されるとはね。
レースの何が面白かったんすか？
……走ってる間、すごいドーパミンが出るの。それが超エクスタシーなの。

別府
張本

別府
張本
別府
張本

木須、野中が入ってくる。
打合せ資料を小脇に抱えながら。

別府 超エクスタシーすか。
木須 !
張本 そう。あんな快感、他では味わえないから。
別府 そんなにすか？
張本 そんなに。
別府 いいっすねえ。なんか聞いているだけで興奮
してきました。
張本 1回やってみて。絶対はまるから。
別府 超エクスタシー？
張本 そう。だから絶対行って。
別府 行きます行きます。絶対。

と言って、スマホを取り出し操作。

木須 張本さん。
張本 はい？
木須 例のお願いしてた資料、今日中にならない
かな？
張本 え？
木須 開発が遅れてることに関して経営から「な
んとかならんのか」って言われたのよ。
野中 社長は「絶対成功させる覚悟や熱意が足り
ない」って言ってたよ。
別府 そう見えてんのは癪っすよね。
木須 それでもう一度夕方に説明に行かなきゃ
いけないようになったの。私たちは別に遊んでる
わけじゃないってことをちゃんと。
野中 さすがに今日中は無理だよな？
張本 資料ですか。はい。元々明後日って言われ
てたんで。
木須 でも今から頑張ればなんとかなるんじゃない？
張本 ・・・今日って何時までですか？
木須 6時。どう？
張本 ああそれは無理ですわね。今日も4時半に娘
迎えにいかなきゃいけないわ。昨日までに
わかってれば、母親に来てもらったんです
が、さすがに今からじゃ無理なんで。

しばし間。

木須 では野中次長がなんとかしてください。
野中 え？私ですか？
木須 6時に説明に行くこと、あなたも了承した
野中 じゃないですか。
木須 いや私もこれから別の会議が入ってます
から、さすがにちよつと。
木須 社長の時間が取れるのがそこしかないこと
と、野中次長もわかっていますよね？だった
ら私たちが合わせるしかないじゃない。

しばし間。

別府 手伝いましょうか。
野中 それは助かる。ありがとう。頼むよ。
張本 すいません。私もできる限りやるんで。
別府 いいつすよ。
木須 それはダメ。……別府くんには別の仕事
をお願いしたいの。それも超急ぎだから。
張本 資料は2人でなんとかしてください。
野中 ・・・野中次長に引き継いでもらえるな
ら。・・・
野中 ・・・わかりました。
木須 こういう緊急事態をクリアすることも結
野中 構エクスタシーよ。
野中 ・・・張本

午後始業のBGMが鳴り、ナレーションが流れる。

ナレ 1時になりました。みなさん、効率的な働き方、チームでの助け合いを意識し、高い目標を実現しましょう。

部屋が明るくなる。

木須 ちよつといいい？
別府 はい。

木須、自席へ。
野中、張本、作戦会議を始める。

別府　ごちそうさまでした。
張本　また行こうね。
別府　今度は社食じゃないとここでお願いします。
張本　私の仕事、また手伝ってくれたらね。
別府　はい。

別府、木須の席へ。

別府　急ぎってなんすか？
木須　経産省の検討会に付いてきてほしいの。
別府　え？それ、僕でいいんすか？
木須　今後、規制緩和関係の情報は別府くんに集約したいんです。
別府　野中次長じゃなく？
木須　彼には開発責任者として、現場ディレクションをメインでやってもらうことになってるから。
別府　わかりました。何時に出ます？
木須　この後すぐ。出る？
別府　わかりました。ただ調べものしたいんで、5分後でもいいすか？
木須　OK。あ、私、ランチがまだなんだけど、付き合ってくれない？経営会議が伸びちやって。
別府　え？ランチ？会議は何時からなんすか？
木須　（スマホを操作して）霞が関で4時から。大体いつも2時間くらいかな？で、私、6時に戻んなきゃいけないから、5時には出たいの。だから後はお願ひ。
別府　え？ああ、わかりました。
木須　終わったら声掛けて。
別府　はい。あ、あと、僕、もうランチは食べたんで、僕はお茶でいいすか？
木須　もちろん。

別府、自席へ。
木須をじっとり見ている野中。

木須 なに？
野中 何でもないです。

そこに立実が入ってくる。
鞆を自席に置いて。

野中 お帰り。どうだった？
立実 (首を振る)
野中 そうか。

立実、張本に紙袋を渡しながら、

立実 うちの冷凍庫いっぱいだからさ。
張本 いいの？
立実 いいよ。
張本 ありがとう。主人がこれ大好きなんです。
立実 昔、出張のたびにもらってたから。
張本 でも行くたびにもらってもな。
立実 すいません。本当なら交代で行かなきゃいけないのに。
野中 いいよ別に。気にすんな。
立実 そうそう。なんせ(大きい声で)チームでの助け合いを意識して高い目標を実現しなきゃいけないからな。

全員、野中に注目。

野中、張本と作戦会議を続ける。
立実、木須に近付き、

立実 今、いいですか？
木須 うーん、もうそろそろ出なきゃいけないんだけど。
立実 現場が悲鳴を上げてます。コストを上げるか、納期を伸ばすか、どちらかしないと、現場が持ちません。
木須 もう諦めるの？まだ3カ月しか経ってないのに？
立実 カワマツさんもギブアップはしてません。毎日頑張ってます。

木須 頑張るのは当然よ。仕事なんだから。
 立実 コストを上げるか、納期を伸ばすか、うち
 木須 としても判断すべきじゃないですか。
 木須 なぜ？：・彼らとは注文書で契約をした。
 立実 そこには納期もコストも書いてある。でき
 なかったら契約不履行になる。自ら条件を
 甘くしてどうすんのよ。
 立実 甘くじゃありません。適正にしてはどうか
 と言ってるんです。
 木須 適正？
 立実 やっぱり目標設定が高すぎたんです。だか
 ら適正な目標に修正すべきじゃないかと
 思うんです。
 木須 目標設定が高すぎ？高い目標を掲げるこ
 とがなぜいけないの？
 立実 リアリティがない。人間に空を飛べと言っ
 てるようなもんです。
 木須 えー？だから人間は飛行機を開発したん
 じゃない。高い目標がイノベーションを生
 む。それはわかるでしょ？
 立実 わかりませんが、わかりません。
 木須 え？
 立実 それでも人間は空を飛べないから。
 木須 もう何が言いたいかわからない。
 立実 プロダクトに対してスペックを上げると
 いうオーダーは、肉体を鍛えろと言ってる
 ようなものですよ。(胸を叩いて)このプロ
 ダクトのスペックを100キロ伸ばせと。
 木須 だから？
 立実 どんなに肉体改造しても、空を飛ぶことは
 できない。
 木須 じゃあ聞くけど、なぜ彼らは注文書に判を
 押したの？できる見込みがあると考えた
 からでしょ？
 立実 契約はカワマツ社長の判断でされました。
 木須 社長も現場の事情がわかってなかったん
 です。
 木須 わかってなかったかどうかは私たちには
 関係ない。社と社の契約なんだから。
 立実 ・
 木須 ・

木須 彼らは彼らで、できると判断した。だから判を押した。空を飛ぶレベルじゃないと思っただ。厳しいかもしれないけど、頑張つて鍛えれば100メートル10秒切ることは不可能じゃない。と思った。そうでしょ？
立実 ・ ・ ・ そうですね。

別府が外出の準備を終え、木須を待っている。

木須 立実主任。下請けを信じて待つのも元請けの役割だと思えます。

立実 コストも納期も変えないと？

木須 それが契約だから。 ・ ・ ・ それともあなた、それを経営に言える？ 下請けから無理と言われたんで目標を下げませんか？

立実 ・ ・ ・
木須 現場を思いやるのは結構だけど、あなたはイチバ自動車の人間だということを忘れないで。
立実 ・ ・ ・ わかりました。

木須、行こうとして、

木須 (別府に) お待たせ。あ、(立実に) ゴールデンウィークに何日か出社したよね？
立実 はい。カワマツさんが来社されたんで。
木須 それはいいけど、絶対代休取って。労働基準法違反は犯罪だから。

立実 ・ ・ ・
木須 (みんなに) 何度も言いますが、法令順守は社の強い意志なの。絶対に守ってくださいね。

張本 だから4時に帰らせていただきます。
木須 OK。じゃあ6時までによろしく。
野中 承知しました。

2人、そのまま外出する。

野中 お前の気持ちもわかるが、諦めるのは早いという部長の意見に俺も賛成だ。まだ3カ月しか経ってない。
立実 3カ月しか経ってないからこそ、立ち戻ってもいいんじゃないかと思っただんです。木須部長には通じませんでしたね。
張本 は絶対なんだから。．．．知ってます？初の女性役員候補なんだって。
立実 ええ？木須部長が役員？
張本 噂だけどね。
立実 マジで？
野中 その噂、初めて聞いたよ。
張本 女が集まると、そんな話になるんです。あくまで噂ですよ。
野中 よくわかるよ。経営会議の様子を見てればな。

木須、登場して1人で回想シーン。

木須 専務の仰ること、すごいよくわかります。その視点がなければ、アイレは売れないと思います。．．．はい、社長？．．．資料ですか？明後日までにお持ちしようと思っただけですが、遅いですか？．．．承知しました。すぐにお持ちします。．．．はい。では6時にまた伺います。．．．あ、常務。土曜のコンペの件なんです。．．．

と言いながら、去って行く。

野中 減点されないよう必死だ。
立実 減点どころか、加点しようとしてるじゃないですか。
張本 女は、加点しないと上に行けないから。
立実 ．．．
張本 あ、私はそんなつもりないから。
野中 昔はあんな感じじゃなかったんだけどな。
張本 どんな感じだったんですか？

野中 エンジニアなんて男ばっかだろ。女ひとり
で頑張ってたよ。

張本 へえ。

野中 新入社員で俺の下に来たけど、全然可愛く
なかった。とにかく言うこと聞かなかった。

張本 想像できない。

野中 でもすぐ俺の同期と結婚してな。

張本 そう言えば、前の旦那さん、営業だって言
ってましたね。

野中 そのまま寿退社すんのかなーって思ってた
らしなくて。でもいつの間に別れて。で、
いつの間に俺の上司になって。

張本 いつの間になって。

野中 で、いつの間に役員の言うことを聞くよう
になって。まあそういうことだ。

張本 上を目指したくなっただんですかね？

野中 わからん。でもそういうことだろ。

張本 野中次長は目指さないんですか？

野中 ？

張本 役員。

野中 え？

張本 だって悔しくないですか？部下に先を越
されて。しかも女に。

しばし間。

野中 飯食ってくる。

と言って去る。

張本 立実さんも役員になりたいですか？

立実 ・ ・ ・

張本 すいません。愚問でした。あ、冷凍庫に入
れてきます。

と言って紙袋を持って去る。

立実 どう見えるんだろうな？上から見下ろす
景色は。

転換。

四場【カワマツ】

真野が珈琲持って入ってくる。

真野

そりゃあもう絶景ですよ。来月の那須岳、
ぜひ登ってください。頂上から見下ろす下
界はね、360度、真っ赤に燃えてます。
この世のものとは思えません。まるで山火
事です。

立実

そんなに？

真野

立実主任、キャンプ好きですよね？

立実

毎月、グランピングして、ました。

真野

だったらキャンプ場いっぱいあるんで、来
たらいいですよ。最近、どこ行ったんです
か？

立実

あ、いや、最近はどこにも。

真野

夏休み、やんなかったんですか？

立実

今年はどこにも行きませんでした。

真野

・・・私たちのせいですか？

立実

いやいや、そうじゃないです。息子が来年、
受験なんです。ちょうどよかったです。

真野

すいませんね。

立実

いやいやホントに。

エレベーター到着の音。

立実

皆さんだって休み返上してやられてるじ
やないですか。

真野

私たちにも意地がありますから。

立実

そう言っていただけと救われます。あり
がとうございます。

下尾が出社してくる。

お腹が大きい。

真野

我々は下請けです。立実主任が謝る必要は
ありません。

立実、頭を下げる。

真野
下尾

おはよう。
おはようございます。(立実に)だから言
ったじゃないですか。ホテル取った方がい
いですよって。

立実

結局、真野さんちにお世話になりました。

真野
下尾

連れて帰ったのよ。

立実

絶対、帰れなくなりますよったのに。
はい。ホントにそうでした。

真野

立実主任、こう見えて、踊りながら歌うん
だあ。

下尾

彼に聞きました。ランニングマン、ばっち
り決めてたって。

真野

そう。もうホントすごかったの。ランニン
グマン。

と云いながら、ランニングマンをす
る真野。でも下手。
和やかな3人。

下尾
真野

私も行きたかったな。2次会。

立実

それは無理だよ。先山くんがあんだけ反対
してたんだから。

下尾

昨日、先山さんにも言ったんだけど。
はい。

立実

もし、やっぱり式を挙げるってなったら、
ぜひ呼んでください。

真野
下尾

ほら。だから挙げた方がいいって。

立実

じゃあもし挙げることになったらお呼び
しますね。

真野

はい。ぜひ。

立実

お母さんの気持ちもわかってけどね、いまど
きは古いと思う。

真野

うちの会社もめっちゃ多いですよ。若い人
はみんな授かり婚です。

立実

ほら。気にすることないんだって。

真野
下尾

私は気にしてませんよ。母が嫌だっつうか
ら仕方ないんです。ひとりで私を育ててく

立実　　れた母に恥ずかしい思いはさせたくない
んです。
2人がそう決めたんなら、それでいいんじ
やないですか。
真野　　一生に一度しかないのに？
立実　　それもそうですけど。
下尾　　一生に一度じゃないかもしんないじゃな
いですか。
立実・真野　　え？
真野　　そういうことなの？
下尾　　あ、先のことは誰にもわかんないって意味
ですよ。二度目の結婚を考えてるわけじゃ
ありません。一応、新婚2日目なんです。

先山、開発室から入ってくる。
実験着を着ている。結果の紙を持っ
ている。

真野　　あー焦った。だよね。
下尾　　です。
先山　　どうだった？
下尾　　あ、うん。順調だった。
先山　　それはよかった。(立実に紙を渡しながら)
立実　　ダメでした。
立実　　そうですね。(紙を見る) 電費9.7って
昨日よりコンマ1落ちてるじゃないです
か。

と言って紙を真野に渡す。

真野　　こっちは順調じゃないかあ。

先山、実験着を脱ぎ始める。

先山　　負極をカーボンに戻したっけ、電費が0.
1落ちました。やっぱ素材は金属シリコン
がベターだと思えます。
真野　　それだと寿命サイクルが短い。車には向か
ないって諦めたじゃないですか。

先山

劣化したのはシリコンの粒子径が大きすぎて微粉化したからです。さっき思ったんですけど、粒子径を小さくできれば、課題はクリアできるじゃねーかと思っただけです。もう一度トライするのはどうでしょうか？

真野

また素材開発つからやり直すんですか？

先山
真野

・ ・ ・
量産計画のことを考えたなら、残された時間はもうない。カーボン素材のまま工夫した方が確実だ。 ・ ・ ・ 立実主任はどう思いますか？

立実

今までやってきた確実なカーボン素材で続けるべきか、リスクを背負って新しい素材、金属シリコンに変えるべきか、ということですね？

真野

はい、そうです。

立実

・ ・ ・ 確かに素材開発からやり直して結局ダメだったら目も当てられない。私も真野課長の意見に賛成です。

真野

先山さんの意見もわかっけど、ここは研究機関じゃない。開発機関だ。好きだけ研究できるなら金属シリコンにトライする価値はあるかもしんねーけど、そうじゃない。我々はプロジェクトのミッション、スケジュールに合わせて開発するチームだ。あと1カ月そこそこで結果を出さなきゃならないことをわかってほしい。ありがたいとございます。

立実

・ ・ ・ わかりました。カーボンで続けます。

先山

いいの？ それで。

下尾

仕方ねーべ。課長の言う通り、この状況で博打は打てねー。失敗は許されねんだ。

先山
下尾

カーボンで続けたら間違いなく成功するの？

真野

それはやってみねーとわかんねー。だったら金属シリコンでも同じじゃない。やってみないとわからないんだから。下尾ちゃんの言っただけでもわかっけど、また素材開発から始めたら2週間は掛か

下尾

先山

下尾

先山
下尾

先山
下尾

先山
下尾

先山
下尾

先山
下尾

先山

真野

下尾

真野

る。プロジェクトリーダーとして、その選
択はできない。

私は2人みために優秀じゃないんで、どっ
ちがいいかよくわかりません。カーボンで
続けた方が、結果、いいかもしれない。

でも先のことには誰にもわかんないじゃな
いですか。開発者としてこの人（先山）を
私はとても尊敬してます。だから悔いのな
い選択をしてほしいだけです。

俺だって悔いのねー選択してえよ。でもど
っちがそうなんだか俺にだってわかんね
ー。だったら博打は打てねー。それはわか
ってくれよ。

どっちかわかんなかったら、どっちも博打
じゃない。

それはそうだけっど。
それに、ホントにわかんないの？

何が？
どっちの方が可能性があんのか。

わかかんねーよ。わかるはずねー。
じゃあなんでさっき「仕方ねーべ」つつつ

たの？

え？
仕方ねーべ。課長の言う通り、この状況で
博打は打てねー、って。

・ ・ ・
ホントはわかってんじゃないの？金属シ
リコンにした方が可能性あるって。

しばし間。

可能性はシリコンの方があると思います。

カーボンは半年間、散々やりました。
だから確実に電費を上げてきた。

でもこの3カ月は上がってなかった。
金属シリコンに変えたら上がったって喜

んでたじゃないですか。
体積変化が大きすぎた。あれじゃ車載電池

には向かない。劣化が激しすぎる。

先山　　です。から粒子径を小さくする組成ができれば、その問題は解決すつと思っんです。解決しないかもしんない。カーボンでの実験はもうやり尽くしました。ホントに？やり尽くした？やり残したことはゼロ？

先山　　それはさすがにわかりません。

真野　　やり残したことは必ずある。時間がない以上、今まで続けてきたことに乗るべきだと思います。今、引き返す時間はねーべー。

先山　　・・・

下尾山　　あなたがそう思うんなら従えばいい。でも納得できないならとことん話し合うべきだと思っ。悔いを残さないように。ね？

しばし間。

先山　　納得できません。負極の素材は金属シリコンに変えるべきだと思っます。

真野　　なんでわかってくんねんだべ？このプロジェクトは失敗が許されねー。今までの延長で取り組んだ方が確実だべー。

先山　　いやしかし課長、

立実山　　わかりました。わかりました。じゃあこうしましょう。お互い主張する方法のプロコンをそれぞれまとめてください。明日またこっちに来るんで、それ見て、みんなで議論しませんか？素材開発から立ち戻るべきか、今の素材で進めるべきか？どうですか？

真野　　明日また？平気なんですか？

立実山　　今が一番大事な時。私も参加します。

下尾山　　立実主任、電池の開発だけやってるわけじゃないでしょ？そんな時間あんですか？

立実山　　もちろん開発はエンジン回りすべてなんです。が、電池はアイレの心臓部です。心臓が動かなければアイレは動きません。何より優先してやりたいんです。

真野 立実主任がそう言うんならあ私は構いません。
先山 もちろん私も。
立実 ありがとうございます。じゃあまた明日来ます。
真野 わかりました。明日までにプロコンまとめ
ののと、ランニングマン、練習しておきます。
立実 楽しみにしています。
先山 駅まで送ります。
立実 ああ、ありがとうございます。

先山、実験着を持って行こうとする。

真野 あ、それ置いといて。自分が使うから。
先山 え、あ、はい。
下尾 そうだ。もうないかも。
立実 何が？
先山 いやいやいやいや。大丈夫です。さすがに
下尾 もう冷凍庫に入りません。
立実 さすがもうわかっていますね。
下尾 ホントにお気遣いなく。
立実 遠慮しなくていいんですよ。売るほどあるんですから。
立実 いや、ま、そうでしようけど。
下尾 私も行くんで、店に寄ってくれる？
立実 わかった。
先山 いやいやホンントに。ホンントにもう大丈夫ですから。
下尾 だったら部の皆さんに分けてください。
立実 言われなくても分けてます。
下尾 だったら他の部の皆さんにも分けください。
立実 え？
下尾 宣伝、よろしくお願いします。
立実 ・・・わかりました。(真野に) それじゃ
真野 失礼します。
立実 はい。また明日お待ちしております。

3人、出て行く。

真野、実験着を着て、開発室に行く。
そこに茂弘、小枘がやってくる。

茂弘 さっきの人事の話、渡りに船ですね。
小枘 自分もそう思いました。真野課長は間違いなく、こちらの要求に応じてくれます。
茂弘 頼みましたよ。
小枘 お任せください。・・・呼んできます。
茂弘 (頷く)

小枘、出て行く。
しばらくして戻ってくる。

小枘 喫煙所にはいませんでした。

と言ってそのまま開発室へ。
しばらくして小枘、真野が戻ってくる。

真野 なんですか、話って。
茂弘 今朝の結果、教えてもらえますか？
真野 はい。

と言って結果紙を渡そうとして、
小枘、奪い取る。
小枘、それを見て茂弘に。

茂弘 なかなかうまくいきませんね。
小枘 しかも昨日より0.1落ちてるよね？
真野 はい。負極の素材をカーボンに戻しましたから。

茂弘 これからどうするつもりですか？・・・何か手はあるんですか？
真野 まだはつきりと決まってません。先山くんと今後の方針で対立しました。それでお互いが主張する方法のメリットデメリットを洗い出して明日議論することになりました。
茂弘 明日？
真野 はい。お互い、納得づくで次に進もうと。

茂弘
真野

納得は大事です。
そこに立実主任がまた出張して立ち会っ

茂弘

てくださるそうです。

真野

はい。

小枘

遅いよね。

真野

はい？

小枘

どうもみんなと会話が噛み合わないのは

真野

そういうことなんじゃないかって、最近思

小枘

うんだよね。

真野

どういうことですか？

小枘

のんびりすぎるっていうか。

真野

はあ。

小枘

そんな悠長な状況じゃないことは真野さ

真野

んが一番わかっているでしょ。

小枘

そりゃあわかっていますよ。ですからどの方

真野

法が一番ベストか、明日、みんなで議論し

小枘

ようってなっただんです。

真野

さつき社長から叱責された。

小枘

・・・結果が出ないからですか？

真野

それ以外ないよね。

小枘

遅いってことですよ。

茂弘

別に遊んでるわけじゃない。一生懸命やっ

真野

てます。小枘さんもわかってますよね？

小枘

わかってるよ。わかってるけど、社長は結

真野

果がすべてだから。

茂弘

そんな簡単に結果が出んなら誰だって苦

真野

労しない。仕方ないじゃないですか。元々

小枘

無理難題を承諾したのは社長です。だっ

茂弘

たらあんたがやってみろって。そう言い返

真野

してくださいよ。茂弘部長。小枘課長補佐。

しばし間。

茂弘
真野

真野課長の気持ちはよくわかります。

結果を出せないのは申し訳ないと思っ

てます。でもね開発ってそういうもんじゃな

いんですか。椅子に座ったまま建てる計画通

りにいくわけない。相手にしてるのは化学

物質なんです。相手して初めてわかったことが多すぎる。

しばし間。

茂弘 小枘課長補佐。

小枘 はい。

茂弘 少しお腹が痛くなってきました。

小枘 わかりました。

真野 え？だいじですか？

茂弘 トイレが長くなると思います。話をしてお

小枘 いてください。

真野 はい。

茂弘 腹痛ですか？

真野 ええまあ。

茂弘 薬、買ってきますね。

と言って立ち上がる。

茂弘 ああいや、買わなくていい。

真野 なんですか？

茂弘 ・・・自分で行くから。

真野 いいですよ。薬局すぐそこなんで。トイレ

茂弘 入ってる間、戻って来れますから。

真野 いいから。真野課長は話を続けといてくだ

さい。

真野 ・・・わかりました。

茂弘、「あいたたた」とか言いながら
お腹を押さえ出て行く。

小枘 遠慮しないでいいのにね。

真野 真野さん、カワマツで働きたくないです

小枘 か？

真野 え？今、働いてます。

小枘 カワマツエナジーじゃなくて、カワマツ本

真野 社のことですか？

小枘 本社？どういうことですか？

真野 真野さんち電器屋さんでしょ？聞きました。

小枘 それで家電の開発を志したって。

真野 小真 小真 小真 小真 小真
真野 小真 小真 小真 小真 小真
はい。よく知ってますね。
さつき人事に聞きました。
親父が店を広げすぎて潰れたんですけど
ね。もうないですよ。
それも聞きました。
はあ、そうなんです。
上に立つ人間はそれでいいと思います。ひ
とつのミスがチームを崩壊させることにな
る。
さつきっから何を言ってるんですか？
・ ・ ・
小真さんが私に敬語使ってるの、初めて聞
きました。

しばし間。

小真 小真 小真 小真 小真 小真
小真 小真 小真 小真 小真 小真
真野さんにとっていい話です。
だから何ですか？早く言ってください。
カワマツ本社で開発をやっていただくの
はどうかと社長が言っていました。
社長が？どういうことですか？
ですから言葉通りです。世界のカワマツで
開発をやっていただけたい。
まったく話が見えません。
ですからそのままですって。カワマツ本社
が真野さんを引き抜きたいってことです。
子会社から親会社に。
・ ・ ・プロジェクトをもうやるなっつーこ
とですか？
これはあくまで僕の独り言です。 ・ ・ ・電
費の数字が違ってても誰も疑わないですよ
ね。この9・7が10・0になっても。

しばし間。

真野 小真 小真
真野 小真 小真
改ざんしろっつーことですか？
・ ・ ・
そんなこと僕言いました？

小 柎

あくまで僕はここ（開発室）で出た数字は誰も疑わないよなあって呟いただけです。

真 野

だって誰も見てないんだから。

小 柎

それってだから数字を改ざんしろって言うってんじゃないですか。

だから僕は何も言ってない。数字さえクリアすればみんなハッピーになるのにな。

という事実を言っただけです。社長も。イチバ自動車さんも。そして真野さんも。

・ ・ ・ なんてそんなことを私に？

プロジェクトのリーダーだからです。

そんなこと私にはできない。

・ ・ ・ 誰もこの数字を疑わないのにな？

真 野

真野さんは社長が期待する数字を出して

くれると信じてます。慎重に慎重を重ねる

リーダーだからこそ期待してるんです。

数字の改ざんに慎重もありませんよ。そんな

無責任なこと、できるわけじゃないじゃないで

すか。

小 柎

僕も無責任はよくないと思ってます。でも

この会社の責任についても言いたい。社と

社の間で交わした契約という責任で

す。・ ・ ・ まさか真野さん、自分さえよけ

れば会社はどうなってもいいという無責

任な人じゃないですよ？ ・ ・ ・ 会社は約

束しました。航続距離500キロを出すリ

オン電池の開発を、

だからそれはそもそも無理な注文であっ

て、それを今、言われても、

それあのとき言いました？真野さんだけ

じゃない。先山くんは？まゆみんは？それ、

声に出して社長に言いました？ ・ ・ ・ 確か

に最終的には社長が判断しました。でもそ

れは僕や茂弘部長を含め、この部のみんな

が無理だと言わなかったからです。

真 野

・ ・ ・ だとしたら会社の責任を果たすため、僕た

ちには何ができるかということになりま

せんか？

真野 何ができるか・・・
小 枘 会社が期待する数字を出すことです。来週

までに。

真野 来週？え？来週なんて聞いてない。量産計
画まで1カ月あるはずだ。

小 枘 1カ月じゃ遅いんです。1週間をお願いし
たい。

真野 なんですか？そんないきなり言われて
も困ります。

小 枘 それは僕もわかってます。でも来週までに
結果出したら、みんなが幸せになれるん
です。

真野 無茶苦茶だ。

小 枘 でもそれが会社というものだ。

真野 ・・・何があるんですか？来週。

小 枘 イチバの町田社長と川松社長のトップ会
談が急遽設定されました。

真野 ・・・だからそこに間に合わせろっつーこ
とですか？

小 枘 社長同士の会談にお土産が必要なことは
わかりますよね？交渉を有利に進めるた
めです。

真野 電池の開発成功がお土産ですか？

小 枘 電費の数字が実際と少し違っていても誰
がそれに気付くと思います？理論値と実

測値が違うのは当たり前のことだし、安全
が損なわれるわけでもない。つまり不幸に
なる人は誰もいないってことです。僕は真
野さんに、お父さんのようになってほしく
ないんです。

しばし間。

真野 ちよっと（タバコ）一息入れましょう。

と言って歩き始め、

真野 茂弘部長入れて話をしましょう。

と言って去る。

小柘、深々と頭を下げる。
転換。

五場【イチバ】

木須、野中、立実、別府、張本、5
人とも机に着席している。
立実の足元にはポストンバッグ。

木須 回して。

と言って資料を配布する。

木須 それじゃ部会を始めます。

立実 (木須に) すいません。11時の新幹線に乗
りたいんで、10分後に抜けさせてください。

野中 わかった。何かあればメール入れとく。

別府 議事録は書いておきますんで。

立実 ありがとうございます。

木須 出張？

立実 はい。宇都宮です。

張本 今度はお土産、別なものにしてくださいね。

立実 (苦笑) そうだな。

木須 何しに行くんですか？

立実 カワマツエナジーさんと打ち合わせです。

木須 (野中に) 聞いてないんだけど。

野中 そうだ。すいません。昨日、立実から報告

受けてお伝えしたかったんですが、いらっ

しやらなかったんです。朝一報告すべきと

ころ失念してました。私の責任です。申し

訳ありません。

木須 ・・・じゃあ今、報告してください。

立実 はい。

暗転すると時間が経過している。

立実 それでもう一度、行くことにしました。

木須 ・・・それ、わざわざ立実主任が行く必要

あるの？

立実 ・・・どういう意味ですか？

木須

現場は現場に任せればいいんじゃない？
立実主任はあくまでプロジェクトの管理者
者なんだから。

立実

プロジェクトをマネジメントする立場だからこそ、重要な会議には参加すべきじゃないんですか？

木須

負極の素材をカーボンにするか、金属シリコンにするかが、そんなに重要？

立実

何言ってるんですか？重要ですよ。開発の成否を握ってるんです。今日の会議が目標を、クリアするかどうかの分岐点なんです。

木須

私、前にも言ったと思うんだけど、下請けを信じて待つのも元請けの役割だと思いのね。

立実

・ ・ ・ 宇都宮に行くってことですか？
現場の会議になんで管理者のあなたが参加するのか、私には理解できません。

立実

プロジェクトを成功させたいからです。

木須

立実主任がその会議に参加すると、必ず成功するの？

立実

必ずなんて言えませんよ。でもそういうつもりでプロジェクトをマネジメントして
います。

木須

私たちの担当は電池だけじゃないのよ。動力関係全部。そっちはどうするの？

立実

・ ・ ・
まさか土日に行りますとか言わないでね。

木須

それはないです。

立実

ならいいんだけど、とにかく時間は有限なの。もっと効率的な働き方を心掛けてください。もちろんみんなも。

木須

それぞれ、思い思いに「はい」とか頷いたり。

立実

「働き方改革」の意味、わかってる？
重要な会議にも参加できないことが、「働き方改革」なんですか？

木須

「働き方改革」なんですか？

木須

そうは言わないけど、だったらテレビ会議
でいいじゃない。わざわざ宇都宮まで行く
必要あるの？

立実

面と向かった会議じゃないと理解できな
いこともありませう。

木須

面と向かった会議じゃないと理解できな
いこと？って何？

立実

・
・
・
表情とか、声の感じとか。そういうことじ
やないですか。

張本

別府

表情も、声の感じも、うちのシステムはか
なりのクオリティではつきりわかります。
実際の会議と何ら変わらないと思います。

張本

別府

え？なに？別府くん、そっち派？
そっち派もこっち派もないす。僕は事実を
言ってるだけです。表情や声の感じが重要
だったらテレビ会議でも充分です。

野中

画角じゃないか。

と言って立って説明を始める。

野中

つまりテレビ会議だとカメラの位置で見
え方が固定されるだろ。ここにカメラがあ
るとすると、ずっとこういう絵で会議に参
加するっていうことだ。でも実際ここに座
っていると、自分の視点でメンバーを見るこ
とができるから、細かい情報も拾えるって
ことじゃないか。

立実

わかりませう。話してる人だけじゃなく、ま
わりの表情や声も同時に入ってくるから
より細かく追えるってことですよ。

木須

実際に会議に参加する方が細かくわかる
の当然じゃない。私が言いたいのは、そん
な細かい情報必要？ってこと。大事なこと
は会話の内容でしょ。

野中

目の前で見たり聞いたりする内容はテレ
ビ画面を通して見たり聞いたりする内容
とは違います。

木須

何が違うの？テレビ会議と実際の会議で
・
・
・
何が違うの？テレビ会議と実際の会議で

野中

木須
別府

だからそれを聞いてるの。

会議の議事録をテキスト化したら、きっと同じだと思うんです。文章としては。何が違うんですかね？

野中

何かが違うとしか言いようがない。

立実

（腕時計を見て）テレビ会議では理解できないことを現場で感じたんです。感じて判断したいんです。金属シリコンにすべきか、カーボンにすべきか。この部にとって重要な会議です。行かせてください。お願いします。

木須

．．．許可できません。

立実

1日潰してまで行く必要性を私は感じません。

立実

重要な会議だからみんなと直に議論したい。それじゃ説明不足ですか？

木須

テレビ会議で充分です。

しばし間。

木須

言うべきかどうか迷ったんだけど．．．それは言わなくていいんじゃないすか。

別府

．．．あなたは黙ってて。

立実

なんですか？

木須

遊びに行きたいだけじゃない？宇都宮。

立実

違います。打ち合わせです。

木須

ツイッターに楽しそうな写真が上がってたんだけど。

立実

ツイッター？

木須

随分、楽しそうだった。

立実

なんのことですか？

木須

一昨日の夜の写真。

立実

一昨日？

張本

あ！それ、私、リツイートしたかも。

立実

なんだっけ？

野中

なに？どんな写真？

張本、野中にスマホを渡す。

と、突然、爆音で「R・Y・U・S・E・I」が流れる。
真野、先山が突然やってくる。
そこに立実が加わり、ランニングマ
ンを始めるところで先山が自撮り。
真野、先山、去る。

野中
立実

確かに楽しそうだ。

木須部長。会議の後です。先山さんと下尾
さんが籍を入れたんです。そのお祝いで飲
みに行ったんです。取引先と友達になるこ
ともダメってことですか？働き方改革っ
ていうのは。

木須

そんなことは言ってます。友達？どうぞ
ご自由に。

立実

飲み代も自腹です。会社の経費で落として
ません。何が問題なんでしょうか？

木須
張本

部の申請フォルダ、開ける？
はい。

と言ってPCを操作。

木須

立実主任の出張申請。それ、それ開いてく
れる？・・・日帰り出張から1泊2日に変
更した理由のどこ、読み上げてください。
カワマツエナジーとの会議が深夜にまで
及び交通機関がなくなつたため。

張本

しばし間。

木須

虚偽申告です。

立実

本来なら日帰り出張であるところ、飲み歩
いて1泊2日に変更、翌日午前中の時間を
無駄にただけじゃなく、申請書に虚偽の
内容を記載してます。

立実

これでもまだ、宇都宮に行きたいと言えま

立実

すか？
・・・

木須 この件は大目に見ますが、立実主任はしばらく出張禁止にします。

立実 ・ ・ ・

木須 (野中に) いい？

野中 すいません。監督不行き届きでした。

木須 部会は10分後に再開します。

木須、出て行く。

野中

立実

野中

立実

野中

張本

野中

張本

野中

張本

運が悪かったと思って諦めろ。
仕事で行くのに、運ってなんですか？
脇が甘いんだ。仕方ないだろ。
(頭を抱えて) あー失敗したー
部長と繋がんの止めろ。色々面倒くさい。
私ですか？
リツイートしなきゃバレなかった。ブロッ
クだよブロック。
いえ、私、木須部長とは繋がってません。
え？そうなの？
はい。会社で繋がってるのは立実さん
と ・ ・ ・

と言って別府を見る。

別府

野中

確かに張本さんとは繋がってますが、僕も
木須部長とは繋がってません。

じゃあなんで木須部長は写真を見たん
だ？ ・ ・ ・言っとくが俺はSNS一切やっ
てないからな。

ホントですか？

ああ。ツイッターもフェイスブックもイン
スタも、一切やってない。

すごいやってそうな感じするのに。

・ ・ ・

野中

別府

野中

立実

野中

友達の友達の友達、みたいなことじゃない
すか？

はりじゅんもSNSに上げる情報には気
を付けるよ。

(突然) 野中次長。

びっくりした。なんだよ？

立実 午後、半休にします。

野中 は？

立実 自腹で宇都宮に行きます。だったら問題ないですよね？

野中 ないわけないだろ。働いてるのに休みにするのはサービス残業になる。絶対にやっちゃいかん。

立実 休みに何しようが自分の勝手じゃないですか。会社に指図されたくありません。

野中 お前がそう思っても、労基署はそう思わない。バレたらアウトだ。

立実 でも絶対にバレないですよね？（IDを掲げて）記録が残らないんだから。

野中 ・・・そうだけど奴らを甘く見ないほうがいい。取引先の入場記録まで調べるらしいからな。

立実 野中次長も若い頃は現場主義だったって言ってたじゃないですか。

野中 それも確かにそうなんだけどな。

立実 私も現場を大事にしたいんです。

野中 ・・・

立実 午後半休にしてたまたま宇都宮に行くだけですよ。いいですよね？来館記録も残らないような気を付けます。

野中 聞くな。聞いたらダメというに決まってるだろ。

立実 わかりました。聞きません。

別府 でも僕、聞いちゃいました。・・・木須部長にバレたら超大問題ですよ。まずくないですか。

立実 部長には何も言うな。テレビ会議はお前が出たことにして報告すればいい。

別府 いや、しかし、それは・・・

立実 いやなのか？

別府 別府くん、部長派だよね？

張本 え？いやちょっと待ってください。部長はみんなの部長で、そういう意味ではみんな部長派じゃないですか。ですよね？

張本 いや、私、違うけど。

立実　ちよつともう時間ないんで、行きますね。
すいません。午後半休取ります。(別府に)
ホント頼むな。
別府　えー。えー。

立実、書類やらをポストンバッグに
詰め始める。
そこにデスクの電話が鳴る。

張本

(電話) はい。イチバ自動車、パワーユニ
ット開発部でございます。・・・ああ真野
課長、お世話になってます。張本です。・・・
はい元気です。・・・ちょうど1歳半にな
りました。・・・そうですね。はい。・・・
はい、ありがとうございます。頑張りま
す。・・・はい、少々お待ちください。(電
話口を押さえ、立実に) カワマツエナジ
ーの真野さんです。

と言って電話を渡す。
真野、携帯で話しながら登場する。

立実　(電話) はい、変わりました。立実です。
真野　(電話) 真野です。よかった。まだいらし
て。

立実　(電話) まさに今から出るところでした。さ
つきお話しした通り、11時49分に宇都宮に
着く新幹線に向かいますから。

真野　(電話) それなんですけどね。

立実　(電話) はい。
真野　(電話) 今日はもう来なくてだいじになり
ました。

立実　(電話) え? どういうことですか?

真野　(電話) 負極の素材、カーボンに決めまし
た。

立実　(電話) え? プロコンの議論、昼からみん
なでする予定でしたよね?

真野　(電話) それを今、課のみんなで話して、
カーボンにすつと決めたんです。

立実　(電話) もう結論出したってことですか?

真野
立実
真野
立実

(電話) そうです。
(電話) 私を待たず？
(電話) すいませんね。
(電話) いやま、それはいいんですけど、でもそんなに早く決まるもんですか？(腕時計を見て)午後の予定決めたの1時間前ですよね。そのときはそんなこと言ってなかったのに。

先山が入ってくる。
別府が出て行く。

真野

(電話)あれからすぐ話がまとまりまして、先山もカーボンのメリットに納得してくれました。

立実

(電話) シリコンに相当こだわってたの
に？

真野

(電話)昨日はそうでしたがね、やはりデメリットの方が大きいと理解してくれたんです。

下尾が入ってくる。
張本が出て行く。

立実

(電話)下尾さんは？先山さんに「納得できないことはするな」って相当強く言ってたじゃないですか。

真野
立実

(電話) 下尾も最終的には、はい。
(電話)・・・

茂弘が入ってくる。
野中が出て行く。

立実
真野

(電話)茂弘部長と小柝さんも？
(電話)もちろん納得しました。全員の総意で決まったんで、こうしてお電話してるんです。

小柝、入ってくる。

立実 (電話) そういうことであれば。そうですか。わかりました。
真野 (電話) 数字の報告はまた随時入れますから。お待ちください。
立実 (電話) しつこいようですが、今日はそちらに行かなくていいってことですよね？
真野 (電話) そうです。
立実 (電話) . . .
真野 (電話) ランニングマンはまた今度お見せしますね。
立実 (電話) 真野さん。
真野 (電話) はい。
立実 (電話) 素材決まって嬉しいはずなのに、元気がない気がするんですが、
真野 (電話) 気のせいですよ。

転換。

六場【カワマツ】

五場の1時間前。

立実 (電話) この後、ちょっと仕事を片付けて11時49分、宇都宮着の新幹線で行きます。
真野 (電話) わかりました。その頃にお迎え行きます。
立実 (電話) ありがとうございます。では後ほど。よろしくお願いします。
真野 (電話) はい。お待ちしてます。(切る)

立実、出て行く。

真野 イチバの立実主任でした。
下尾 立実さん来んなら、立実さん入れて話し合いませんか？
真野 何を？
下尾 今の話ですよ。
真野 話せるわけないでしょ。数字を改ざんしてもいいですかって。

茂弘 今日はまだ宇都宮に来る必要はありません。結論は出ましたって伝えた方がいいんじゃないですか。

真野 (腕時計を見て)もう少ししたら電話します。

下尾 立実さんにお土産は必要なのかお聞きしたいんです。

全員 ・ ・ ・

下尾 あ、餃子じゃなくて。

(頷く)

全員 開発成功のお土産が必要ないって言われたら、1週間の期限、なくなんじゃないですか。

小枘 俺は社長から直々に言われたの。

下尾 数字を改ざんしろって？

茂弘 それはありません。この話は真野さんからの提案です。社長は指示してません。間違っても茂弘部長も承認したわけですよ。

下尾 つまりは忖度じゃないですか。みなさんの僕は納得できません。結果出すために今まで一生懸命やってきました。改ざんするってことは、それを全部なかったことにすることです。

真野 今までやってきたおかげで、あともう少しというところまで来た。その、あともう少しの部分だけ、下駄を履こうってだけだ。それで、自分は納得できた。今までやってきたことは決して無駄じゃない。理解してほしい。

下尾 下駄を履くのにも高いも低いもないです。嘘は嘘。全部なかったことになんじやないですか。

先山 僕もそう思います。

茂弘 世の中には2種類の嘘があります。いい嘘と悪い嘘です。真野課長の提案はいい嘘だと思います。

下尾 なんですか？

茂弘 納期までにリオン電池を納めることができず。だからイチバ自動車さんも予定通

リアイレを来年発売することができません。誰も不幸にならない。この課は社長から感謝され、褒賞がもらえるんじゃないでしょうか。

褒賞？

先山 私たちがよくてもお客様を騙すってことですよ。数値の改ざんは。嘘にいいも悪いもあります。

下尾 それはさつきっから言ってるように「バレル可能性」はゼロに近いのにそうだろうか。ってことなのよ。

下尾 それってバレなければ浮気じゃないって。いう茂弘部長と一緒に言ってますよ。

（咳払い）

下尾 あるものをないって私にはできません。それに、近いってだけで、ゼロじゃないんですよね？バレル可能性。

真野 いやもうゼロだと思う。絶対バレない。カタログの数値を疑う人がどれだけいると思う？

小栞 いないと思う。ってか、そもそもカタログ見る？クルマ買うとき。

先山 見ますよ。じっくり隅から隅まで。

真野 それは先山くんがこういう仕事してるからでしょ。普通は写真だけ見て「格好いいなあ」とか「使えるなあ」で終わりよ。数値までは見ない。

先山 でも航続距離は見るんじゃないですか？1回の充電でどんくらの距離走るかは気になんじやないですか。

下尾 うん。気になる。だってEVでしょ。

真野 だからそれが500キロよ。アイレの航続距離は500。そうでしょ？

小栞 あくまで理論値ね。実際500までいかにいことはみんなわかってるから。だからそこまで厳密になんなくてもいいの。

しばし間。

先山

なんですか？褒賞って。

茂弘

下尾

真野

先山

真野

先山
真野

先山

真野

先山

先山
真野

先山

真野

先山

真野

先山
下尾
真野

期待を込めて言っただけなんで、確約され
たわけじゃないですが、普通は金一封です。
あるいは人事的な何か。つまりそれだけ価
値ある開発を成し遂げたってことです。
成し遂げてないのになんか？

成し遂げたのよ。我々が達成したって言え
ば、達成したことになんの。

真野課長はなんで数値を改ざんしようと思
ったんですか？社長に取り入りたいん
ですか？

そんな個人的なことじゃない。会社の責任
を第一に考えたら、それしかないっつー結
論に至っただけ。

会社の責任？

・ ・ ・ 仮に来週、社長会談がなくても、1
カ月以内に結果を出さなきゃいけないよ
ね？

そのために今まで必死にやってきました。
結果、出なかったらどうする？

だから結果出すために今まで必死に、
そういうプロセスの話じゃなくて、結果、
期待の数字が出なかったらどうするって
話。その可能性、かなりあるでしょ。

・ ・ ・
先山くんも、なんとなくそう思ってたんじ
ゃないかい？口にしなだけで。見たくな
い結果を考えないように、希望だけを口に
して。

諦めたら終わりじゃないですか。

それでもダメだったら？

・ ・ ・
改ざんすつこと考えなかった？

考えたの？

・ ・ ・
そうなの？

来週の社長会談で改ざんした数字を提出
しても、残りの3週間、頑張って数字を出
せばそれでいいわけ。ただ、出せなければ、
結果的に改ざんになってしまう。

下尾 改ざんせずに、できませんでしたって謝っ
ちやダメなの？

茂弘 社が大きな損失を被ります。それはありえ
ません。カワマツエナジーが納期までにリ
オン電池を納めることができないければ、イ
チバ自動車さんはアイレを来年販売する
ことができないわけです。販売することが
できなければ、イチバさんだけでなく、す
べての下請け会社の売り上げが立たない。
その損失分を補償しろとうちに言ってく
るかもしれないません。契約を守れなかつたう
ちに責任を取れと。そういうことです。
そんなに契約って絶対なんですか？

下尾 絶対です。契約とはそういうもの。そして
契約を守っていくことが、会社の信用を作
ることになるんです。

下尾 イチバさんから信用されても、お客さんか
ら信用されなくなりません。
だからその可能性は限りなくゼロだと言
ってる。

しばし間。

先山 いずれにしたって素材を一から作り直す
ことはしないわけですね。(書類を出しな
がら)せっかくプロコンまとめてきたのに。
今、与えられた諸条件を考えたら、カーボ
ンしかないと思う。

先山 そして数字を改ざんしろと。
社長が契約するとき反対の声を上げなか
ったじゃない。だったらこの部署の責任だ
と俺は思う。

先山 声上げてたら違ってたんですか？
それはわからない。でも同じじゃないか
な？そういうもんでしょ。会社って。

しばし間。

下尾 茂弘部長。
茂弘 なんですか？

下尾 私、辞めますね。

全員 え？

下尾

ホントは産休取ろうって思ってたんですけど、戻ってきてもやっついていける自信無くしました。開発者が開発を諦める会社で働きたくないんです。

先山

ちよつと待った。早まんのは止めよう。今、そう思っていて、あとから考えたら、あんなんであの時あんなこと言っちゃったんだろうなあってことあんべ？そのパターンになる気がする。

下尾

ならんないよ。

先山

なんべ。今、感情的になってるだけ。冷静になつたら後悔するって。

下尾

しない。私、今、すごくスッキリしてる。

先山

俺は今、すごくドンヨリしてる。

下尾

そうなの？

先山

じゃあ俺はどうすんだよ。俺も辞めなきゃいけないんけ？

下尾

あなたはあなたで納得できる道を行けばいいんじゃない。例えば会社に従う道を選んだとしても、あなたがそれを自分で納得すんなら、私は認める。ちよつと寂しいけど。納得って、なんで俺が会社に従うのはよくて、君はダメなんだよ。いいべ？だったら。だって生活しなきゃいけないじゃない。

先山

いやま、そりゃそうだけって、

下尾

それに私は、子どもに胸を張れる母親でいたい。自分の信じることを曲げない強い母親。上に忖度するような子どもになっほしくないの。．．．なのでこのまま人事に寄って帰ります。今までお世話になりました。この会社で働けて楽しかったです。昨日までは．．．開発頑張ってください。アイレは買わないけど。．．．あ、社長同士の会談が成功したら、打ち上げは、ぜひ下尾餃子をお願いします。お土産用意して待ってますから。

と言ってお辞儀。

颯爽と退場。
呆気にとらられている4人。

真野　　・ ・ ・ (茂弘、小枘に) すいません。ちょっと (先山と) 2人で話させてください。何を話すんだ？
茂弘　会社が悪いことはしません。だから、お願いします。

と言って深々と頭を下げる。
茂弘、小枘、目を見合わせ、頷く。
茂弘、小枘、去ろうとした時、

真野　小枘課長補佐。 ・ ・ ・ 例のありがたい話、お断りします。
小枘　え？なんで？
真野　その代わり、茂弘部長から川松社長にお願いしていただきたいことがあります。
茂弘　なんですか？
真野　茂弘部長にとって悪くない話です。
茂弘　わかりました。後ほど伺いましょう。

茂弘、小枘、去る。

真野　珈琲飲むかい？
先山　あ、いや、結構です。
真野　あ、そう。 ・ ・ ・ それにしても大した母ちゃんだね。尻に敷かれてるよね？
先山　座布団通り越して、フロアマットです。
真野　尻じゃなくて足！
先山　はい。
真野　大変だ。先山くんも。
先山　でも悪くないです。なんですか？例のありがたい話って。
真野　・ ・ ・ カワマツ本社で働かないかって言われたのよ。
先山　え？本社に？
真野　そう。家電の開発やらないかって。

先山

えー、それすごいじゃないですか。子会社から親会社に引き抜きて話、聞いたことないですよ。

真野

でしょ。えっへん。

先山

でも断ってましたね？

真野

どうにも身の丈じゃない気がしてね。

先山

なんで？そんなことないと思いますけどね。

真野

そんなことある気がすんのよ。

先山

家電の開発やりたかったんですよね？夢

真野

って言ってたじゃないですか。

先山

そんなこと言った？

真野

言ってますよ。

先山

大学受験する時は確かにそうだったけど

真野

ね、うち電器屋だったでしょ。親父が調子

に乗って店舗拡大したのよ。大学生のとき。宇都宮から郡山、福島の方に5店舗くらい

だったかな。結局、それがうまくいかなかったって、借金返済に困って、とうとう（首を

くくった）。

先山

すいません。親父さんの話、知らなかった

真野

誰にも言ってなかったからね。

先山

トラウマになんのもわかんですけど、もっ

真野

たいないと思いますよ。

いや、だから身の丈を考えようって心に刻

真野

んでんのよ。親父もメーカーと無理な販売

先山

契約結んで、それを捌けずに立ちいかなく

真野

なったの。メーカーにそのノルマは無理だ

先山

って言えばよかったのね。

真野

無理な契約。

先山

もしくは何か誤魔化せばよかったのよ。命

真野

より大事な契約なんてないはずだから。

先山

先山くん。

真野

はい。

先山

急で申し訳ないけど、明後日には異動して

真野

もらうから。

先山

え？

真野

うちの課に君はいらないから。

真野

え？

先山　　なんですか？
真野　　ここでは君の力を発揮できないと思う。
先山　　改ざんに関わらせないためですか？

真野、先山の資料を見る。

先山　　全部、自分で背負うつもりですか？

真野　　何言ってるんのよ？

先山　　それは僕の台詞です。

真野　　だから異動の通達だ。明後日からここに来ないように。

先山　　嫌です。僕はここでアイレのリオン電池を開発したい。

真野　　開発はあともう少しじゃない。だからこっからは自分ひとりやれるって判断した。

先山　　いくらなんでもひとりじゃできない。

真野　　ここに来たいなら来てもいいけどよ、他の部署の人が（開発室）そこに入れないこと、知ってるよね？

先山　　僕は入社以来、自動車バッテリーひと筋です。今さら他の開発はできません。

真野　　できるよ。（資料）この、納得するまで諦めない気持ちさえあれば。

先山　　見捨てるんですか？

真野　　逆だよ。先山くんが先に進むんだ。先山だけに。（笑）

先山　　・・・改ざんすつからですね？

真野　　誤解してるようだけど、改ざんはしない。私は私の信じる開発で、結果を出すつもりだ。

先山　　それは無理だって、自分でも言ってたじゃないですか。しかもひとりとか。全部、背負うつもりなんですよね？

真野　　別に諦めてねーよ。1週間以内に結果を出して、手柄を独り占めする。それには先山くんが邪魔なだけ。

先山　　独り占めしようとしてるのは手柄じゃない。罪です。お願いです。止めてください。

真野　　異動は会社の命令だ。会社員である以上、逆らうことはできない。特例だけど、明日

先山　の経営会議に掛けてもらうことになった。
通れば、明後日には異動だ。
先山　どこなんですか？異動先は。
真野　モバイルバッテリー事業部だ。ぜひそこで
シリコン素材の開発にトライしてほしい。
先山　決定ですか？
真野　今朝、社長から言われた。決定だ。
先山　社長と話をします。

先山、出て行こうとする。

真野　早まるのは止めた方がいい。後悔するパターンだ。感情的になんな。冷静になれ。生まれてくる子どものために。

先山、出て行く。
それを追いかける真野。

七場【記者会見】

充電池の異音がする。
同時にフラッシュが焚かれ、5人の記者たちが一斉に入ってくる。

記者1　町田社長ご自身、アイレの航続距離に不正があったと認めるんですね？
記者2　電気自動車における燃費を電費というふうですが、本来の電費とどのくらいの乖離があったんでしょうか？
記者3　木須部長にお聞きしたいんですが、不正は意図的だったんですか？
記者4　イチバ自動車はアイレを何台生産したんでしょうか？
記者5　ゴビ自動車との販売提携が不正発覚のきっかけになったということですね？
記者3　野中次長、国内販売された新車は何台なんんでしょうか？
記者5　木須部長にお聞きしたいんですが、不正は意図的だったんですか？

記者 1 今まで買われたお客様への補償はどうするんでしようか？

記者 2 イチバ自動車はアイレを何台生産したんでしようか？

記者 4 電気自動車における燃費を電費というそうですが、本来の電費とどのくらいの乖離があるんでしようか？

記者 5 リコールということで間違いはないでしょうか？

記者 1 ゴビ自動車との販売提携が不正発覚のきっかけになったということですか？

記者 4 社長は開発計画をどこまで把握されていたんでしようか？

記者 3 町田社長ご自身、アイレの航続距離に不正があったと認めるんですね？

一瞬間。

記者 2 不正の内容と経緯を教えてください。

転換。

八場【イチバ】

木須が出てくる。
続いて立実が出てくる。

立実 町田社長の発言を聞いたなら、カワマツエナジーが全部悪いと言ってるように聞こえました。

木須 もう終わったの？

立実 どうなんですか？

木須 それは正しい理解です。そう受け取ってもそれは正しい原稿にしたから。

立実 だっただけならそれはおかしいと思います。そう仕向けたのはうちです。イチバ自動車が無理な計画を立てなければ、こんなことにはならなかった。

木須 またそれは。問題はそういうことじゃない。私たちは騙されたのよ。カワマツに。目標

立実

をクリアしていない電池を納入されたの。これは紛れもない事実。

木須

されたんじゃない。させたんです。問題はそうさせてしまった我々にあるんです。立実主任。あなたはわざわざイチバ自動車の評判を落とすような発表を自らすべきだと言ってる？

立実

そうですね。このままだとカワマツさんの信用問題になります。

木須

そんなことは知りません。じゃあ私たちの信用は？

立実

もちろん一時は落ちるでしょう。でも誠心誠意謝罪し、業務改善策などを講じ、起きた問題に真摯に対応すればいつかは認めてくれます。

木須

誰が？

立実

世間です。

木須

いつかっていつ？

立実

・
・

木須

私たちにはカワマツエナジーとは比較にならないほど、たくさんのステークホルダーがいます。彼らのことを考えたら、そんなことはできません。

立実

彼らのことを考えるからこそ、正確に話をすべきです。今こそ社の体質改善を宣言して信用を取り戻しましょう。

木須

いったん落ちた信用はなかなか戻りません。先人たちが築いた信用をあなたは軽く考えすぎてる。もっと大人になってください。

立実

大人です私は。だからちゃんとしたいんです。隠ぺいなどせず、ちゃんと話をするところが大人にとって何より重要だと思うから。

木須

大人には大人の事情がある。正直者がバカを見る世の中じゃない。なに、そんな青臭いこと言ってるの。

立実

私に言わせれば、大人になってほしいのは経営であり、木須部長、あなただ。

木須

私？

立実 保身ばかり考えてるじゃないですか。そんな
な・に・役・員・に・な・り・た・い・で・す・か・？

木須 女性初の役員に内定してるそうですね。

立実 ね。アイレの華麗なるデビューの立役者ですからね。何もしてないのに。よかつたですね。不正発覚の前に内定して。心からお祝いの言葉を申し上げます。ぜひとも木須役員には、社会に対して責任あるイチバ自動車にしていたきたい。そして何より、社員が誇りに思うような会社にしていただきたい。木須役員には無理ですかね？

木須 ・・・逆パワハラってご存知？

立実 ・・・部下による上司いじめです。今の暴言、コンプラ室に言えば、間違いなく懲戒処分になります。

立実 どうぞ言ってく下さい。下請けを信じて待つだけが元請けの役割だと思いません。丸投げするんじゃない、一緒に悩んで解決する方法をお互いの立場で考えるのが役割だと思います。今までお世話になりました。辞表は後ほどお持ちします。

立実、颯爽と退場する。

野中 (袖から)片付けを手伝いもしないで、どこ行ってたんだ。おい。

野中、張本、別府が登場する。

別府 臨時部会、すぐ始めますよね？

野中 ほっとけ。(木須に)撤収、完了しました。ご苦労様。

木須 (木須に)立実主任、呼んできましたよ。か？

木須 コンプラ室に行ってください。臨時部会は30分後に始めます。

と言って去る。

野中
わかりました。

しばし間。

張本
お疲れさまでした。
ホントに疲れたよ。

張本
・・・そう見えないんですけど。
疲れたけど楽しかったからな。

別府
なんすかそれ。
大勢の記者に囲まれたろ。だから自分が芸

張本
能人になった気分になったんだよ。
芸人？

野中
すごい興奮した。
超エクスタシーすね。

別府
（笑）ここ数年多いだろ。不倫会見。そう
いう感じだった。

別府
でも野中次長、独身じゃないすか。
独身でも不倫会見はできる。

野中
そりゃあ相手が不倫だったら、そうですね。
ど、その可能性ありますか？

張本
おい、それひどくねえか。
あの、さすがに2人とも、不謹慎じゃない

野中
ですか。今、うちの会社、世間からバツシ
ングされてるんですよ。航続距離の記載に
不正があったって。

張本
だから謝罪会見を開いたんじゃないか。
芸能人になった気分って。

野中
別にいいだろ。ここに記者はいないんだか
ら。ここだけの話だよ。

別府
・・・
僕はいい会見だったと思います。

野中
だろ。俺もそう思う。何より木須部長のシ
ナリオがよかった。

張本
え？私はちょっと、被害者みたいな発言が
多すぎて、そうなのかなって思いましたけ
ど。

野中
は？なんで？

張本の携帯が鳴る。
張本、スマホの画面を見て、

張本
すいません。

と言って外に電話しに行く。

野中
実際、被害者なんだからいいよな？俺たちはカワマツに騙された。

別府
いいと思います。立実主任と張本さん、いい人なんすよ。

野中
まあな。

別府
記者会見中、ずっと怒ってましたからね。事実と違う事実と違うって。いい人なんだなあって思いました。

野中
いい人なのはいいが自己中すぎる。余計なことを言うと、周りに迷惑掛かることをわかってない。ステークホルダー全体のことを考えてないんだ。

別府
視野が狭いすよね。あ、そうだ。おでとうございます。

野中
・・・
聞きました。木須部長の後任人事。

別府
なんで知ってたんだよ？

野中
いいじゃないすか。僕なりの情報網があるんです。

野中
俺も最初は断ったんだよ。そんな器じゃなあって。でもどうして言って言われたら、仕方ないだろ。会社のためにひと肌脱ぐかってなったわけよ。

別府
僕は、野中さんに昇格してほしいって思ってたから、すごい嬉しいです。

野中
ありがとうございます。

別府
ホントにおめでとうございます。

野中
ちなみに誰から聞いた？

別府
だからいいじゃないすか。僕なりの情報網なんですって。

野中
CIAみたいだな。

別府
そんな大したもんじゃないす。

野中 その情報網、俺にも教えてくれ。
別府 嫌ですよ。
野中 ちなみに他は？
別府 他って？
野中 他の人事。その情報は聞いてない？
別府 ；・立実さんと張本さんは変わりません。
野中 ステイだそうです。
野中 そうか。・・・お前は？別府はどうなんだ？
張本 そこに張本が戻ってくる。
張本 すいません。保育園からの電話で、娘が熱
を出したみたいなんです。早退していいで
すか。
野中 わかった。
別府 大変すね。
張本 はい。今朝もグズってて。大丈夫だろうっ
て思ったのがいけなかったみたいですね。
野中 じゃあ臨時部会終わってから早退したい
って俺から木須部長に言うから。
張本 え？いや、今すぐ早退したいんですけど。
野中 （腕時計を見て）あと20分で木須部長が戻
ってくる。大事な話らしいから、それ聞い
てからにしろ。
張本 えー？なんですか？大事な話って。
野中 おそらく人事のことだろうな。
張本 人事？
野中 俺が言ったって言うなよ。・・・木須部長
の役員内定がオープンになるってことだ。
張本 え？
野中 木須部長がそう言ったら、初めて聞いた感
じで頼むな。
別府 わかりました。こう見えて僕、高校演劇や
ってましたから。
野中 （張本に）前に言ってた噂話、その通りに
なったな。
別府 噂話？
野中 木須部長が初の女性役員になるんじゃない
いかって。女同士で噂してたらしい。
別府 へえ。

野中 前前のCIAより早かったぞ。
別府 噂だったら僕も知ってましたよ。僕のCIAは確実な情報だけを教えてくれます。
張本 あの、人事の話だったら、明日でもよくないですか。
野中 明日？
張本 明日改めて聞きます。娘が心配なんで帰らせてください。
野中 おい、それはよくないだろ。人事こそ大事な話なんだから。木須部長から直に聞くべきだ。な？
別府 はい。
張本 だったら私はスカイプでの参加にさせてください。
野中 あと20分に戻ってくる。スカイプを電車の中でできるわけないだろ。
張本 人事の話をここで直接聞かなきゃいけない理由がわかりません。
野中 自分とこの部長が役員になんだぞ。部のみんなでおめでとうございますって真っ先に言うのは当然だろ。それにずっといろうと言っていない。1時間くらいいいじゃないか。
張本 子どもが熱を出したって言うてるのにな？
野中 だから1時間だ。そのくらい待てよ。あつちゃんも保育園にいるんだから大丈夫だ。
別府 張本さん、テレビ会議反対派だったじゃないすか。実際の会議じゃないと伝わらないことがあるって言ってませんでした？
張本 覚えてない。そんなこと。
野中 俺ははりじゅんをすごく買ってる。仕事ができるやつだと思ってる。だから、なんかもったいないんだよな。
張本 なにがですか。
野中 もっと会社のことを優先する姿勢見せたら、間違いなく上に行ける。っていうか俺が引く張る。
張本 上ってなんですか？

野中 役職だよ。上に行けば行くほど、社の重要な仕事を任せられるようになるから、やりがいも給与も上がる。そういうことだ。最近、野中次長の言ってることがわからなくなってきた。

張本 は？

野中 昔はそうじゃなかったのに。

張本 俺は昔からこうだ。変わってない。

野中 今の台詞、立実さんが聞いたら、がっかりすると思います。現場を大事にする人だったんじゃないんですか？

野中 現場は大事だ。それは今でもそう思っている。でも現場あつての会社じゃない。会社あつての現場だ。会社は生き残るために必死だ。敵はグローバルだ。現場とは違う遙か高いレイヤーで経営判断しないと競争に負けてしまうんだ。わかるよな？ だったら社員は、まず会社の幸せ第一に考えるべきだと俺は思う。

張本 私は私なりに会社に貢献したいと思つてます。私の幸せは家族です。家族が幸せじゃないと働く気持ちになれません。

野中 家族は大事だ。それでいい。だが会社が幸せじゃないと社員も幸せになれないのも事実だ。リストラ、減給、無理な働き方、いやだろ？ だったら社員はまず会社の幸せを考えるべきだ。すなわち成長であり、部会だ。

張本 なんで部会なんですか？

野中 部会こそ会社だからだ。

暗転。

九場【カワマツ】

暗転明けると、応接セットが片付けられてる。

デスクの外線が鳴り続けている。

真野、ひとりで対応している。

真野

（電話）はい。カワマツエナジー、オートモーティブ事業部です。・・・すいません。取材は広報を通してもらえますか。（切る）

デスクの外線が鳴る。

真野

（電話）はい。カワマツエナジー、オートモーティブ事業部です。・・・その件に関してはお答えできません。（切る）

デスクの外線が鳴る。

真野

（電話）はい。カワマツエナジー、オートモーティブ事業部です。・・・すいません。こちらでは取材をお受けしていません。（切る）

一息ついてまた外線。

真野

（電話）はい。カワマツエナジー、オートモーティブ事業部です。・・・ああ、茂弘役員、お世話になってます。はい、真野です。お元気ですか？・・・それはよかったです。・・・ああもうその件は言わないでください。私は本社で働けるタイプじゃありません。お2人のほうが相応しいと思いましたから。・・・ご用件は？・・・すいません。それはお断りします。今、うちの課、人がたくさんいるんで、出向を受け入れる余裕ないんです。・・・はい。すいません。・・・はい。

デスクの電話の内線が鳴る。

真野

別の電話が入ったんで、またにしてみられますか。・・・小榎次長にもよろしくお伝えください。・・・はい。すいません。（切り替える）はい。オートモーティブ事業

部。．．．今から？わかりました。では3階に通してください。(切る)

真野、応接セットの上を片付けたり。

エレベータ到着の音。

やがて立実が入ってくる。

手に紙袋を持って。

真野
立実さん！ご無沙汰してます。えーお元気ですか？

立実
元気です。ホントにご無沙汰してます。あのカラオケのとき以来ですかね。

真野
1年ちよい前ですね。

立実
真野さんもお元気そうですね。

真野
ええまあ。元気ですよ。なんせこの部署、私ひとりですからね。

立実
下で聞きました。ランニングマン、上達しました？

真野
いやーまあそれはちよっと。すいません。

今から採用面接で人が来るんで、ちよっとお待ちいただけますか？

立実
．．．
すぐ終わるんで。お話しする時間ありますよね？

立実
ありますよ。その面接を受けに来た人、私ですから。

立実
真野
．．．
ここで私を雇ってください。この会社に、この事業部に、そして真野さんとの仕事に、私はやりがいを感じています。是非ともよろしく願います。

真野、泣きそうである。

立実
山登りは好きなんです。一緒に登れば、きっと楽しくなります。
真野
よろしく願います。

と言って深々と頭を下げる。

立実　こちらこそです。あ、これお土産です。

　　と言って紙袋を差し出す。
　　と同時に「イチバ」と「カワマツ」
　　が混ざる。

　　そこに野中、別府、張本が入ってくる。同時に内線が鳴る。

張本　（電話）はい。パワーユニット開発部で

す。．．．張本です。お疲れ様です。．．．

はい。少々お待ちください。（電話口を押
さえ、野中に）野中部長、木須役員です。

野中　（電話）代わりました。野中です。．．．

はい。あ、その件は手を打ってます。お任
せください。．．．はい。．．．ゴミ自動車

さんもカワマツエナジーには今後一切発

注しないと行ってください。．．．わか

りました。お待ちください。（電話口を押

さえ、別府に）別府次長、木須役員が話を
したいそうです。

別府　あ、はい。

　　と言って別府、電話を受け取る。

　　終業BGMが鳴り、ナレーションが
流れる。

ナレ

　　6時になりました。今日はノー残業デーで
す。10分後に全館消灯します。業務に区切
りをつけてみなさん早く帰宅しましょう。
今日も一日お疲れさまでした。

野中、別府、楽しそうに帰る。

張本、ひとり黙々と仕事を続ける。

立実、真野も楽しそう。

溶暗。
幕。